

☆医療的ケア児支援強化 川崎市

(カナロコ by 神奈川新聞) - Yahoo!ニュース 2/19

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20180219-00024010-kana-l14>

> 川崎市は2018年度から、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子ども（医療的ケア児）が地域の市立小中学校に通いやすくなるよう、看護師の巡回事業を大幅に拡充する。親の付き添いの負担軽減へ向け、必要と判断されれば看護師が最大で週5日、1日何回でも巡回する。子どもが学校にいる平日は看護師がケアできるようになる。

同市では現在、小中学校と、看護師が常駐していない特別支援学校に在籍する計14人の医療的ケア児を対象に、訪問看護ステーション9カ所の看護師が巡回。ただ、巡回は1人につき、週2回90分ずつか、週1回180分のどちらかが上限となっている。

必要なケアの回数が多い子どもの場合、親が一日中学校で付き添うケースもあり大きな負担となっている。このため18年度は巡回を必要に応じて最大で月曜から金曜まで週5日、1日に30分単位で複数回訪問できる態勢を整える。18年度当初予算案に前年度当初比約2500万円増の約4100万円を計上した。

18年度に巡回の対象となる医療的ケア児は14、15人になるとみられ、市教育委員会は訪問が必要な時間や回数を調査し実情を把握。親の付き添いの負担が地域の学校に通う壁になっている状況の改善を図る。

同市教委指導課は「市内全域で平日は看護師が対応する。その子に合った学びの場で学習できるよう支援していく」と話している。

地元の小学校に医療的ケア児の次女を通わせる同市宮前区の母親（48）が昨年6月、付き添いの負担軽減のため、学校に常勤の看護師を配置するよう求める請願を市議会に提出。同10月の市議会文教委員会で、全会一致で趣旨採択されていた。

請願を提出した母親は「本当にありがたい。常勤の看護師ではないが、新しい巡回方法なら付き添いなく娘が学校に通えそう」と期待している。

…などと伝えています。

→ 医療的ケア児の付き添いで母親が携帯する
たんの吸引や経管栄養の器具



☆川崎市H30年度予算案から…

<http://www.city.kawasaki.jp/230/cmsfiles/contents/0000094/94854/30zentaiban.pdf>

>教育委員会事務局 P62

一人ひとりの教育的ニーズへの対応

特別支援教育の充実 483,832千円

○ 小中学校等における医療的ケアを必要とする児童生徒を対象とした看護師の学校訪問について、回数の制限をなくし、一人ひとりの医療的ケアの状況に応じた訪問とする等、ニーズに応じた支援を推進します。（拡充）

…などと掲載されています。

以下、関連報道整理で……

☆＜2017かながわ 取材ノートから＞医療的ケア児付き添い 学校に看護師常駐を
東京新聞 神奈川 2017年12月20日

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/kanagawa/list/201712/CK2017122002000137.html>

＞ 医療技術が向上したため病気の新生児の命が助かり、医療的ケアを受けながら生活する子どもたちが増えている。

川崎市宮前区の小関かおりさん（48）の次女リナさん（12）も、喉に付けた器具で呼吸し、栄養をチューブで胃に入れる。小関さんはリナさんと小学校に登校して別室に待機。教員は一日数回、たんを吐き出せないリナさんをそこに連れてきて、小関さんが吸引する。

小関さんとリナさん取材し、自宅で吸引する場にも立ち会った。「苦しそう」と思うと同時に、学校生活に保護者の付き添いが必須というのが妥当なのか疑問を感じた。小関さんは夫が入院し、貯金を取り崩すなどしながら生活している。付き添う必要がなくなれば、生活費を稼ぐこともできる。小関さんは「働いて長女の進学もかなえたい」と悩んでいた。

厚生労働省の二〇一五年度の推計では、十九歳以下の医療的ケア児は十年前の一・八倍に増えたが、公立小中学校に通う子どもは保護者が付き添うケースが多い。国は昨年度、児童福祉法に支援を明記。自治体が小中学校に看護師を配置する経費の補助も始めたが、各自治体の対応はこれからという印象だ。

川崎市の制度では希望者一人につき、一週間に最大三時間、医療的ケアをする看護師に学校に来てもらえる。ただ、これではリナさんが学校にいる間は付き添いを必要とする小関さんには時間が足りない。

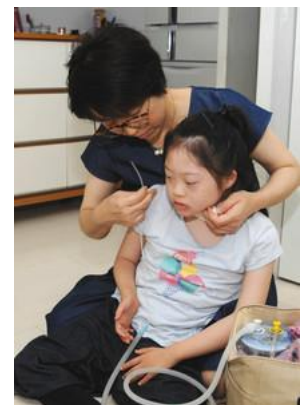
横浜市では本年度から医療的ケア児一人が通う小学校に看護師を常駐させている。小関さんは六月、これを引き合いに出して常駐を求める請願を川崎市議会に出した。

市議会は十月、本会議で採択を決め、市教育委員会は、市教育振興基本計画かわさき教育プラン（一八～二一年度）の素案に個別事情に応じた支援を行う旨を書き込んだ。

今回は小関さん一人の行動が表面化したが、水面下には常駐を求める多くの声なき声があると思う。請願が出された際、インターネット上では「税金を使わせるな」などと批判的な意見がみられた。別の医療的ケア児の母親は「（常駐を望む意見を表明すれば）世間にたたかれるのでは」と不安を口にする。

川崎市が制度をめぐって、今後、具体的にどんな提案をするのか。注視しながら取材を進めたい。…などと伝えています。

→ 娘のリナさんを抱え、
たんの吸引の準備をする小関かおりさん＝宮前区で



☆「医療的ケア児」1.7万人——保護者らの胸のうち

Yahoo!ニュース 1/24 配信 特集編集部 <動画>

<https://news.yahoo.co.jp/feature/871>

> 神奈川県川崎市に暮らす光菅和希くん(6)は、全身の筋力が低下する難病を患っている。日中は数分から数十分おきに、たんの吸引が必要で、家族は片時も離れることができない。和希くんのように日常的な医療的ケア(介助)を必要とする子どもが、「医療的ケア児」である。全国で約1万7000人(19歳以下)とされるが、サポートの仕組みは十分ではないという。彼らや家族はどんな状況に置かれているのか。まずは、3家族の現状と思いを伝える動画を見てほしい。

…などと伝えています。

* 3家族目に登場されています。

>> 入学、進学、卒業、就職…それぞれの壁

小学校入学時にも壁がある。

川崎市立小学校の特別支援学級に通う5年生の小関リナさん(12)は毎朝、母のかおりさん(48)と一緒に登校する。娘を教員に預けると、母はそのまま、校内の別室へ。医療的ケアを施すため、ここで下校まで待機する。

…などと伝えています。

☆医療的ケア児の通学問題② 2017年11月05日

NHK1.5チャンネル) <動画>

<https://www.nhk.or.jp/ten5/articles/17/002416.html>

> 医療的ケア児の通学付き添いで疲弊する家族。気管切開しているリナさん。通学先の学校で医療的ケアを行うのは、母のかおりさん。朝8時半から下校まで、教室で待機している。国は、看護師配置費用の一部を自治体に補助していて、かおりさんも自治体に要望してきたが、原則「保護者に対応してほしい」と看護師の配置は週3時間だけ。かおりさんの夫は6年前に倒れ、現在も入院中だが、かおりさんは仕事もできず貯金を切り崩す厳しい生活。

…などと伝えています。

☆医療的ケア、母の願い(上) 学校に常勤看護師を

神奈川新聞ニュース 2017/06/23

☆医療的ケア、母の願い(下) 仕事就ける後押しを

神奈川新聞ニュース 2017/06/24

…の連載などをワード版で整理掲載しました。

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20170623-24%20kanagwa%20news.pdf>

☆学校に常勤看護師を 川崎の母、市議会に請願

東京新聞 社会 2017年8月5日 朝刊

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/list/201708/CK2017080502000126.html>

△川崎市議会 請願受理一覧 請願受理一覧 請願受理一覧 2017年7月21日

<http://www.city.kawasaki.jp/980/page/0000085469.html>

請願受理一覧 受理番号 031～038

034 医療的ケアの必要な子どもが、親の付き添いなく、地域の小・中学校へ
通えるように、常勤看護師の配置を願う請願 平成29年6月7日

<http://www.city.kawasaki.jp/980/cmsfiles/contents/0000085/85469/seigan034.pdf>

文教委員会平成29年10月3日 趣旨採択

本会議 平成29年10月6日 採

※請願内容など報道も含めワード版整理…

<http://www.mcnet.or.jp/download/pdfdata/20170805%20tokyo%20news.pdf>